建築系学生奨励事業

第２４回 卒業設計コンクール展 開催

埼玉建築設計監理協会の法人化３０周年を機に始まった卒業設計コンクール展は、一般社団法人へ移行した協会の主要な活動として位置づけられています。コンクールは、その趣旨に賛同いただいた多くの企業・団体、共催・協賛団体の協力により運営されています。

今年は会場を埼玉会館展示室とし、令和６年４月２０日(土)から２３日(火)開催され、１２の大学から４０作品が応募し、埼玉賞候補作品は２６作品、自由テーマの作品は１４作品となりました。

今回から審査方法が変更になり、作品には設計者の氏名・所属大学名が掲示され、また審査時には設計者自らが作品の説明を行うことができることとしました。設計者が自らプレゼンテーションを行ったことで、展示会場が大いに盛り上がりました。

今後、埼玉県知事賞、準埼玉賞受賞などの作品については、関連した自治体へのプレゼンテーションや展示を行う予定です。卒業設計での提案を基に、産官学が連携して地域の問題解決や賑わい創出ができることを期待しています。

□　開催主旨

昨今の都市計画や建築デザインに於いても、ＩＣＴ革命時代にふさわしい斬新な発想が求められています。そのような中、新しい世紀の第一線で活躍が期待される建築系学生の能力向上、育成を図る目的で、次代を先取した意欲ある作品を募集し、若い学生達の考える創造価値と熱意を奨励します。

特に、当協会としては「埼玉」を分析し、再構築を試みることにより街づくりの活性化を図り、地域を変える起爆剤となるような夢溢れる作品を待っています。

□　テーマ、募集作品

（１）埼玉をテーマとした作品（埼玉県知事賞対象候補）

（２）自由テーマの作品

上記の分類による都市や建築デザインをテーマとした作品の卒業設計を対象とします。

□　各賞

埼玉県知事賞　１作品…テーマ(1)の作品の中で最も優れた作品　（副賞として海外研修旅行目録・30万円相当）

準 埼 玉 賞　１作品…テーマ(1)の作品の中で優れた作品　（副賞として5万円相当の目録）

埼玉建築設計監理協会賞　１作品…募集作品の中で最も優れた作品〔埼玉県知事賞受賞作品を除く〕（副賞として海外研修旅行目録・20万円相当）

準埼玉建築設計監理協会賞　１作品…募集作品の中で優れた作品〔埼玉県知事賞受賞作品を除く〕（副賞として5万円相当の目録）

＜全作品対象＞

特別審査員賞　３作品…各大学の先生による審査とします（副賞として３万円相当の目録）

埼玉県住宅供給公社賞　１作品…まちづくりを題材とした作品（副賞として３万円相当の目録）

さいたま住宅検査センター賞　２作品…住宅を題材とした優れた作品（副賞として５万円相当の目録）

ＪＩＡ埼玉賞　２作品…優秀な提案、建築家に相応しい作品。

総合資格学院賞　２作品…社会に飛び出す若駒のエネルギッシュな作品（副賞として５万円相当の目録）

日 建 学 院 賞　２作品…来場者の投票により選ばれた作品（副賞として５万円相当の目録）

奨　励　賞　適　宜

□　審査員

作品出展校から各学部の先生１名、埼玉県(１名)，さいたま市(１名)、大手建設業(１名)
(一社)日本建築学会関東支部埼玉支所(１名)、(一社)埼玉建築士会(１名)、(一社)埼玉県建築士事務所協会(１名)、
(公社)日本建築家協会埼玉地域会(JIA埼玉)(１名)、(一社)埼玉県建設産業団体連合会(１名)、埼玉県住宅供給公社(1名)、
(一財)さいたま住宅検査センター(１名)、当協会賛助会員(１名)、当協会会員より数名

□　主　催　(一社)埼玉建築設計監理協会

協　賛　(一社)日本建築学会関東支部埼玉支所、(一社)埼玉建築士会、(一社)埼玉県建築士事務所協会
(公社)日本建築家協会埼玉地域会（JIA埼玉）、(一社)埼玉県建設産業団体連合会、埼玉県住宅供給公社
(一財)さいたま住宅検査センター、　(一社)埼玉県建設業協会、(一財)埼玉県建築安全協会、総合資格学院
日建学院、松坂屋建材㈱　生和テクノス㈱　生涯スポーツ建設㈱　㈱中西製作所　㈱カワムラ、㈱オキナヤ
㈱アーバンリサーチ　和光建設㈱　スミダ工業㈱　吾妻工業㈱、㈱佐伯工務店、㈱島村工業、㈱蓮見工務店

後　援　埼玉県、さいたま市、テレビ埼玉

受賞された皆さん

埼玉県知事に説明する受賞者

公開審査

設計の意図を伝える能力も設計者に必須の条件であるという現場で活躍する会員の考えから、今回から応募作品には設計者の氏名・所属大学名が掲示され、審査時には設計者自らが作品のプレゼンテーションを行うことができることとした結果、会場のそこかしこで審査員と設計者が真剣に語り合う様子が見かけられました。このような経験が、これから建築の現場で仕事をしていく中で、大きな自信となることを期待します。

建築系学生奨励事業特別委員会からのお知らせ

第24回卒業設計コンクール展において、埼玉県知事賞を受賞した作品が桶川市役所2階ロビーに展示されました。（展示期間：令和6年6月24日～7月31日まで）

建築系学生奨励事業、第24回卒業設計コンクール展に於いて見事「埼玉県知事賞」を受賞されました工学院大学、菅野大輝さんの作品が対象地域であります桶川市役所の２階市民ギャラリーに展示されました。

桶川市長の小野克典様を始め多くの市役所職員の方々からも本作品に対するお褒めの言葉を頂きました。市役所へ来庁される市民の皆様からも大きな注目の的となりました。中山道宿場町として栄えて参りました桶川市民に取りましても大変喜ばしいことと称賛のお声を頂きました。

菅野大輝さんの今後のご活躍を心よりご祈念申し上げます。

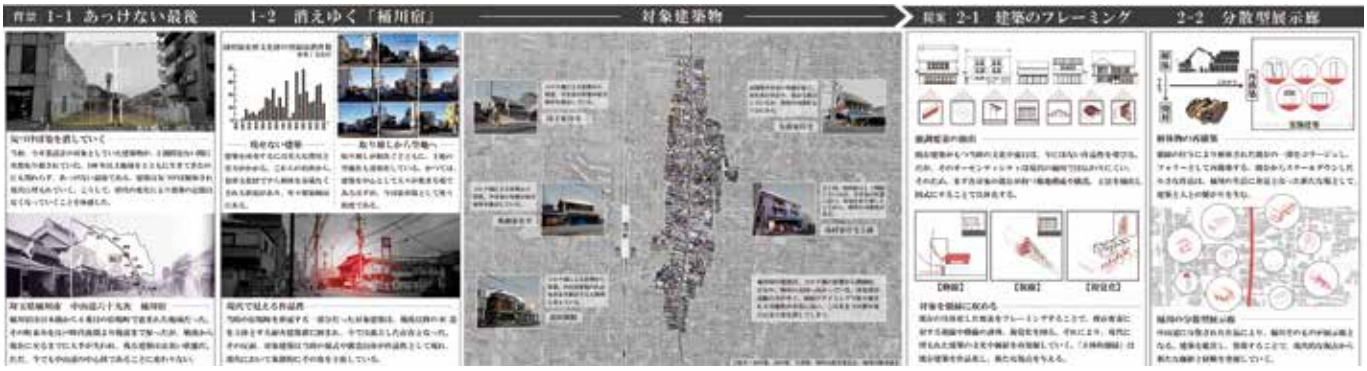
建築系学生奨励事業特別委員会　委員長　村山隆之

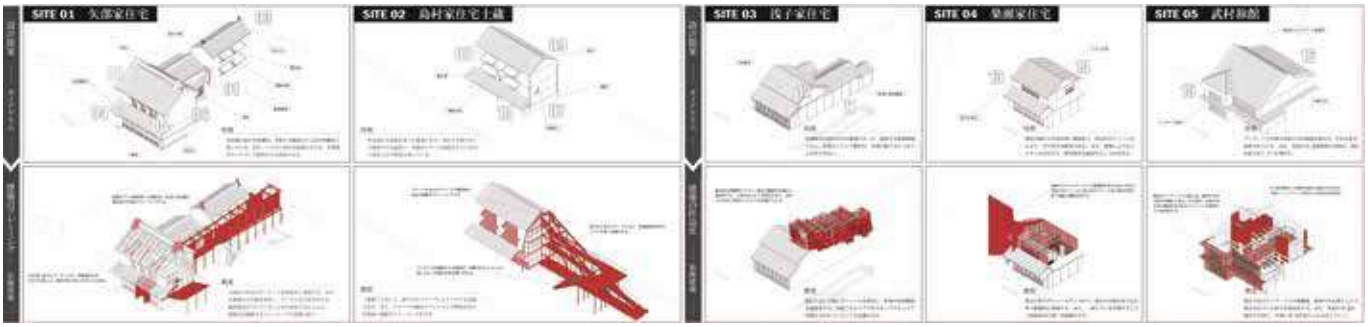
埼玉県知事賞

工学院大学建築学部建築デザイン学科　菅野 大輝

額縁から見る -建築の作品化による街道沿いの分散型展示廊-

埼玉県桶川宿の残してきた建築の新たな価値と経験を発見するため、現代的な視点「額縁」から建築そのものを作品として鑑賞する。額縁に収められた建築という作品は中山道をギャラリー化し、地域全体が展示通路となる。街道沿いを人々が散策することで、桶川そのものを再発見していく分散型展示廊。



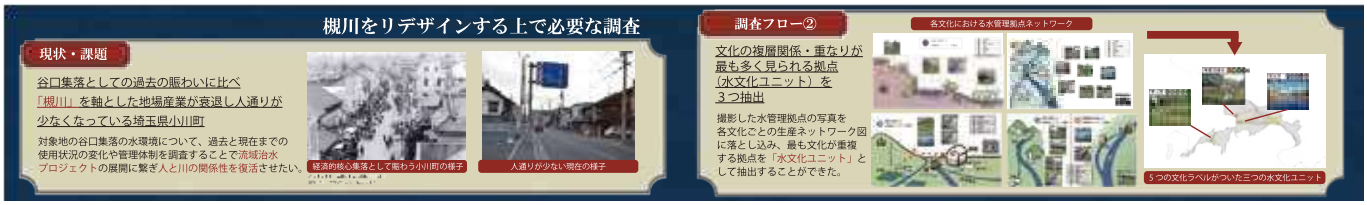


準埼玉賞

筑波大学芸術専門学群 環境デザイン領域　池見 紀乃

水文化ユニットのリデザインによる槻川の流域治水

本作品は、水文化拠点とそれらに関連する周辺環境を総じて「水文化ユニット」とし、流域治水の対策、仕組みに関心が向くようリデザインした提案である。
対象地は槻川を軸に豊かな水文化が形成されている谷口集落の一つ、埼玉県小川町とする。研究結果から抽出した三つの水文化ユニットに対して、一つ目は日本酒や足湯を楽しみながら農業を学べる研修交流施設、二つ目は町内外から人々が集まり歴史と治水技術が学べる学習公園兼集水地、三つ目は対象ユニットの核となる栃本堰周辺に回遊性を生み出す親水空間をデザインした。これら三つのユニットのリデザインによって、管理体制が衰退している槻川流域全体に新しいマネジメントネットワークが形成される。流域治水の推進に繋げられるような、より強固な人々の「つながり」が川から生み出されるのである。



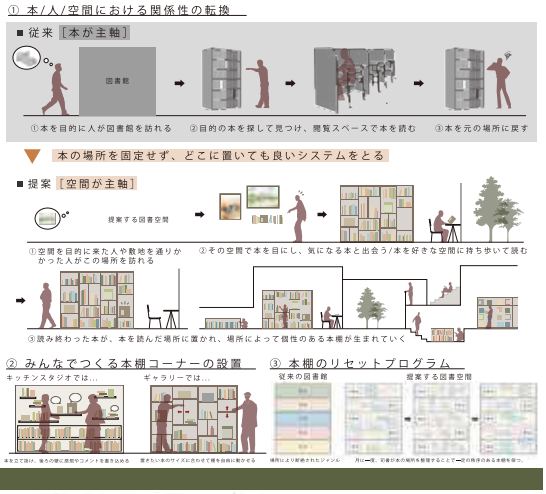
埼玉建築設計監理協会賞

工学院大学建築学部建築デザイン学科　久保 桜子

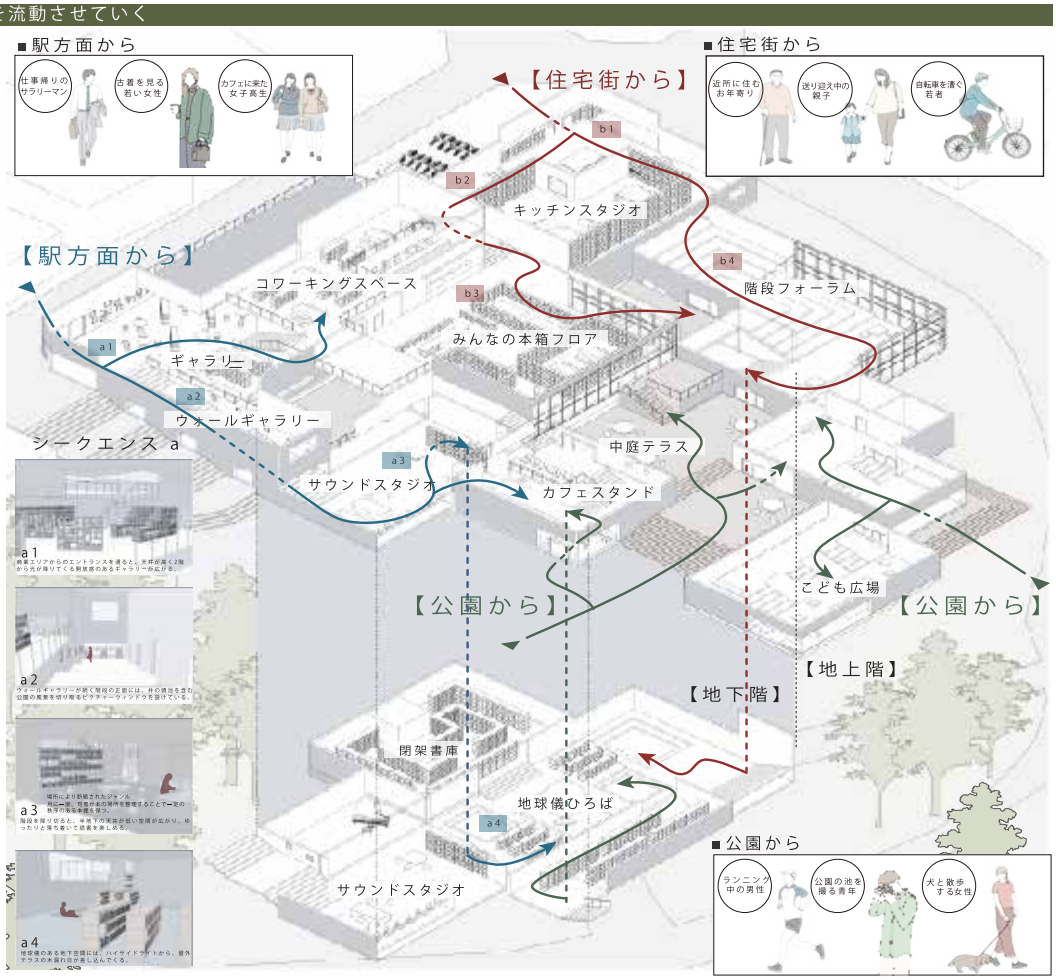
流動的図書空間　-個性の片影が集う本棚の世界-

本の場所が固定されず、人の手によって流動していくことで、本を通して新しいもの・ことを見つける図書空間を提案する。　「空間の質」によって本の位置を操作し、建築が与える空間体験によって人が本を動かし、流動させることで、新たな本と出会うきっかけをつくる。

提案プログラム:本を流動させ、人と本との新しい出会いを作る



設計：空間体験によって人が本を流動させていく

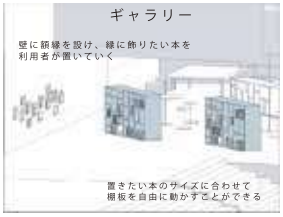


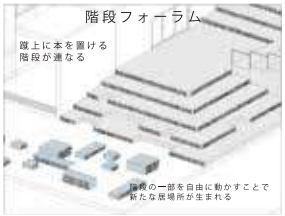
空間を構成する本棚と可変性を持つ本棚

空間を構成する本棚：本棚が空間の一部となって、建築をかたちづくるもの

可変性を持つ本棚：好きなように本棚を動かしたり、手を加えたりすることができるもの

この2種類の本棚を、内に入る機能や敷地の特性に合わせて一体的に利用できるよう配置し、その場所で行われているアクティビティをより豊かなものにする。





準埼玉建築設計監理協会賞
ＪＩＡ埼玉最優秀賞
日建学院賞

東京電機大学理工学部理工学科建築都市環境学系
岸 ちひろ、柳澤 貫太〔協働〕

キノループ－林業の郷、７０年構想－

コンクリートジャングルと呼ばれる現代において、木は無機質なビルに取って代わられてしまっている。そこには、元来生物が享受していた自然の恩恵は少なく、存在していたはずの緑の豊かさを感じることは街を離れない限り難しい。そこでゴルフ場を林業と住宅街に変容させ、木の成熟年数70年と木造住宅寿命70年という年数の合致を利用した、木材の生産と利用の関係を持続させる郷を作りだす。林業体験施設を中心とした、自然と暮らしが身近にある林業の郷を提案する。

ＪＩＡ埼玉優秀賞

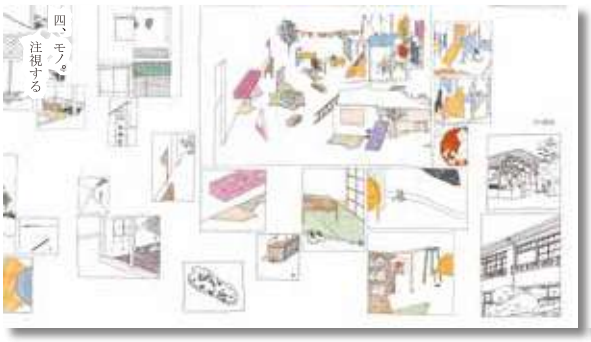
ものつくり大学技能工芸学部建設学科　藤村圭央莉

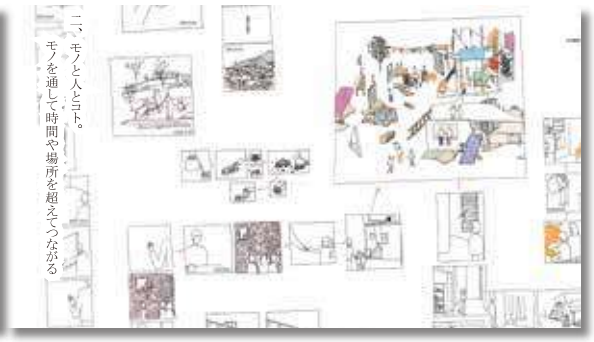
算数でつなぐまち

モノには記憶が宿る。町のいたるところでモノを用いて操作を行い、それを町の人が見ることで、記憶の中にさりげなく刻み込まれる。そして、その記憶の集合体が町やモノを意識させ、考えさせるという行為につながる。自分の宝物や亡くなった人との思い出のモノ、歴史が詰まったものなど、自分にとって友達にとって、ご近所さんにとって、亡くなった人にとって大切なものを町のみんなで共有し、記憶が詰まったモノが街にあふれる。

小さい操作×コミュニティ＝愛着のある町

本作品は、愛着を設計する。様々な手法を用いてこの作品を表現することで、モノの見方の幅を広げ、新たな視点で物事を見ることにつなげる。





ＪＩＡ埼玉優秀賞

日本工業大学建築学部建築学科建築コース　高橋　陸

トロッコが走る幸手の横丁鉄道

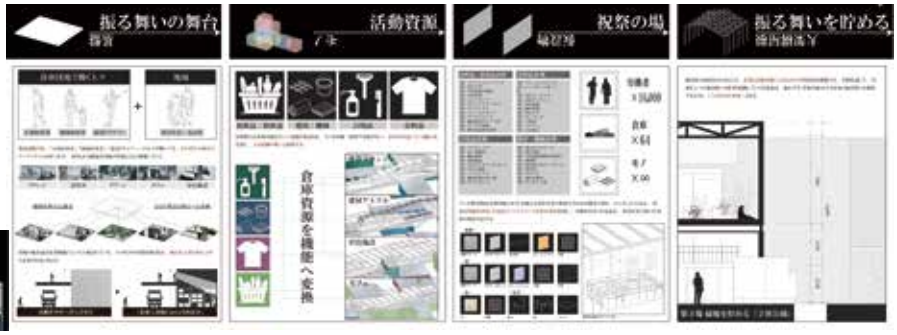
幸手市の商店街では「トロッコ」が走る店舗が見られる。商店街は細長い短冊形の敷地が特徴的で、敷地裏の蔵から表の店舗までの運搬作業は負担が大きかった。そこで荷物の運搬に「トロッコ」が使われるようになり横丁鉄道として親しまれていた。しかし、現在の商店街は衰退が進んでいる。今回の設計プロセスではテナントの要素をトロッコに移し、建築化させた。それぞれ機能を持たせたトロッコによってテナントを切り替える。例えば、だいどこロッコとテーブルトロッコを運べばカフェに、本棚トロッコを運べば本屋に切り替わるなど流動性の高い商店街を目指して計画した。

特別審査員賞

工学院大学建築学部建築デザイン学科　山崎 翔大朗

「振る舞いを貯める」　-物流現場に築く「ひとの為の倉庫」-

物流のための空間を思い浮かべた時、そこに人はいただろうか。物流サービスが拡大する裏側で、物流現場には、ひとの為の空間が不十分であり、深刻な労働者不足を引き起こしている。そこで、その大きな枠組みの中で、労働者や地域住民が交流し、人々の「振る舞い」が貯まるようなひとの為の倉庫を提案する。



特別審査員賞

実践女子大学生活科学部 生活環境学科　竹島 綾里

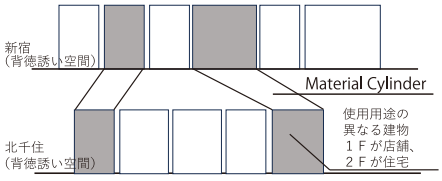
都市型高層建築構成法

夜の繁華街を象徴する建物が並ぶ横丁は、いかにも入りにくい雰囲気が漂っているものの、一歩足を踏み入れると、水平方向に奥へ奥へと誘い込まれる。そして、活気ある雑多な空間やそこで生まれる新たな出会いが魅力の一つとなっている。これを、「背徳誘い空間」と定義する。一方で、閑静な住宅街やホテル、公園では、人々は安心や落ち着きを感じ、その場にとどまろうとする。これを、「健全落ち着き空間」と定義する。都市は、この２つの両極端な空間が膨大な中間領域を介して曖昧に繋がることで形成されている。この研究では、水平方向の移動を促す、背徳誘い空間、その場にとどまらせようとする、健全落ち着き空間を抽出し、それらを隣接し合いながら繋げることで、それぞれの魅力が凝縮した新たな積層建築の空間構成手法を提案することを目的とする。背徳誘い空間同士を積み重ね、階層ごとで建物の用途が異なるものを抽出する。それらを、人々の動きを抑制・促進させる、Material Cylinderによって繋ぎ合わせる。Material Cylinderで囲まれた空間は、背徳誘い空間と健全落ち着き空間の融合空間となり、個人のスペースや団体のスペースを持つことで、自然と人の流れが起きることを促す。一方で、背徳誘い空間同士の層を内、Material Cylinderではない空間を健全落ち着き空間とし、居住系、学習系、健康系の生活を彩る施設を挿入する。3種類のMaterial Cylinder、健全落ち着き空間、背徳誘い区間を自由に行き来することで、２つの空間が本来持つ良さがより高められ、人々の交流を促す、活発的な積層建築にすることを目指す。

背徳誘い空間
①新宿思い出横丁
②吉祥寺ハモニカ横丁
③北千住飲み屋街
④大宮南銀座通り

健全落ち着き空間
生活を彩る施設
・居住系：ホテル、老人ホーム
・学習系：カルチャースクール、大学
・健康系：温浴施設、スポーツ施設

設計手法
・各階で使用用途が異なる建物を抽出し、
Material Cylinder によって繋げる。
・Material Cylinder によって囲まれた空間を、
背徳誘い空間と健全落ち着き空間の融合空間とする。



Material Cylinder

Wood Cylinder

Stone Cylinder

Nature Cylinder

背徳誘い空間と健全落ち着き空間の繋ぎ方

背徳誘い空間の屋上に３層の空間を挿入することで、背徳誘い空間、健全落ち着き空間を互いに行き来し、魅力ある空間を提案する。
この３層は、多くの吹き抜けを持つ。３層吹き抜けとなっている場所には、ガラスのエレベーター、２層吹き抜けとなっている。

積層建築について

３種類のMaterial Cylinderによって背徳誘い空間、健全落ち着き空間が本来持つ、それぞれの良さが高められ、活動的な建築となっている。
また、Material Cylinderは、建物の上下方向からのみではなく、敷地をまたいで横方向にもつながっており、人々の動きをより活発化させている。

特別審査員賞

東洋大学理工学部建築学科　行川　慧

コモンインフィル　既成住宅街の再興

うちはうち、よそはよそ。私が住む、さいたま市内の戸建て住宅地は、排他的な雰囲気が漂っている。宅地化から月日が経つと、子供の声、街行く人は減り、地域コミュニティは、希薄化する。人口減少で、虫食い状に空き家が増えれば、さらに寂しさが増していくだろう。このような戸建て住宅地の再興を試みる。地域コミュニティ形成を図る事例の多くは、地域の主体性や、特殊なコンテクストに依存しているが、戸建て住宅地は、設計の手掛かりとなる、主体性やコンテクストに乏しく、それらに依存しない、普遍的手法が必要である。その手法とは、地域全体の合意が必要な大掛かりなまちづくりでなく、一人の建築家、一つの敷地、一人の地権者から始められる小さなまちづくりではないだろうか。こうした、ありふれた住宅街の小さなまちづくりを考える。

排他的雰囲気が漂う郊外戸建て住宅地

排他的な雰囲気

空き家の増加

コモン　インフィル

地域に開かれた「コモン」をもつ建築を
住宅地における空地や空家に「インフィル」

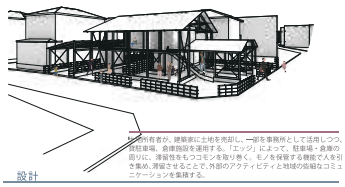
自治会を単位とする。
小深作自治会のエリアを
対象とする。

クラスター＝築年代ブロック

クラスター型開発。
築年代が最も古いブロックを抽出。
コモン建築を局所的に点在。
入口集約を目標とする。

自治会の各班を単位とする。
３つのケーススタディ。

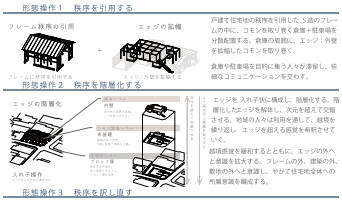
シェアスタンド　駐車場・倉庫施設



空き家の所有者が、建築家に土地を売却し、一部を事務所として活用しつつ、駐車場、倉庫施設を運営する。「エッジ」によって、駐車場・倉庫の周りに、滞留性をもつコモンを取り巻く。モノを保管する機能で人を引き集め、滞留させることで、外部のアクティビティと地域の協働なコミュニケーションを集積する。

設計

形態操作１　秩序を引用する



戸建て住宅地の秩序を引用したS造のフレームの中に、コモンを取り巻く倉庫＋駐車場を分散配置する。倉庫の周囲に、エッジ：外壁を拡幅したコモンを取り巻く。

倉庫や駐車場を自利に集う人々が滞留し、密接なコミュニケーションを交わす。

エッジを入れ子状に構成し、階層化する。階層化したエッジを解体し、次元を超えて交相させる。地域の人々は利用を通して、越境を繰り返し、エッジを超える感覚を希釈させていく。

越境感覚を緩和するとともに、エッジの外へと倉庫を拡大する。フレームの外、建築の外、敷地の外へと意識し、やがて住宅地全体への所属意識を醸成する。

境界を明示、閉鎖し、外部を排除する秩序を持つ「エッジ」を訳し直す。

エッジ：外部の拡幅操作によって、倉庫に起因するアクティビティを外へ誘発する。外部を排除するのではなく、外のアクティビティが溢れ、滞留性を与える

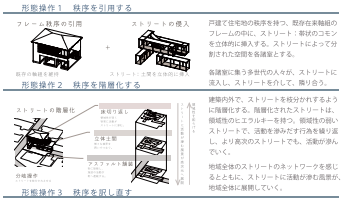
結幅した外壁に入り口を作り分けることで、密接なコミュニケーションを促す。

こどもスタンド　学童保育施設

空き家の所有者が、所有を維持した状態で、既存戸建て住宅を改修し、NPO法人によって、学童保育施設を運営する。幼稚園、通所介護送迎バスの待合機能を併せ、日常的な多世代横断の交流を図る。「ストリート」によって、学童保育所に、他者性を引き入れ、をコモンを挿入する。地域の人々が入こと、関係性が高う、子供たちが発見的に過ごす場となる。

設計

形態操作１　秩序を引用する



戸建て住宅地の秩序を持つ、既存在来軸組のフレームの中に、ストリート：軽鉄のコモンを立体的に挿入する。ストリートによって分割された空間を各誘室とする。

各誘室に集う多世代の人々が、ストリートに流入し、ストリートを介して、触り合う。

建築内外で、ストリートを段分けするように階層化する。階層化されたストリートは、領域性のヒエラルキーを持つ：領域性の低いストリートで、活動を誘ゆだす行為を繰り返し、より高次のストリートでも、活動が進んでいく。

地域全体のストリートのネットワークを感じるとともに、ストリートに活動が滲む風景が、地域全体に展開していく。

郊外戸建て住宅地において、公私境界を明確化示し、私空間を隔離する「ストリート」を訳し直す。

ストリート：土間 を立体的に挿入し、街と連続する。必然空間として隔離せず、初から引き入れた、他者性で満たしていく。

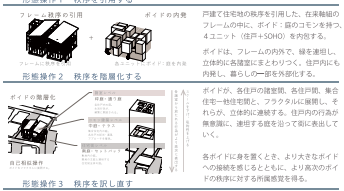
建築の上下内外、既存の軸組の内外問わず、様々な境界を跨いで空間を接続する。振設内外のアクティビティを混ち、推移する。

ワーカースタンド　SOHO集合住宅

空き家を相続した土地の所有者が、不動産企業を仲介して SOHO 集合住宅を新設し、土地の不動産活用を行う。1階を賃事務所、シェアオフィスを設ける。2階は、住戸を配置する。「ボイド」によって、ワークスペースや住戸の周囲に、滞留性を持つコモンを設ける。職場内に、外へ踏み出す生活を通して、おおらかな暮らし、人へと変えていく。

設計

形態操作１　秩序を引用する



戸建て住宅地の秩序を引用した、在来軸組のフレームの中に、ボイド：籠のコモンを持つ、4ユニット（住戸＋SOHO）を内包する。

ボイドは、フレームの内外で、線を連想し、立体的に各誘室にまとわりつく。住戸内にも内発し、暮らしの一部を外部化する。

ボイドが、各住戸の誘室間、各住戸間、集合住宅一般住宅間と、フラクタルに展開し、それらが、立体的に連続する。住戸内の行為が無意識に、連想する籠を沿って面に表出していく。

各ボイドに身を置くとき、より大きなボイドへの接続を感じるとともに、より高次のボイドの秩序に対する所属感覚を得る。

郊外戸建て住宅地において、他との距離をとるために、暮らしを圧迫する「ボイド」を訳し直す。

暮らしの中に、ボイドを内発させ、暮らしの一部を外部化する。外部化された住戸内の行為が、隣接化されたボイドを沿って、段階的に外へ開放していく。

生活や仕事を、内部に圧迫せずに、よりマクロなレベルに拡張していく。開放性を持つ。

埼玉県住宅供給公社賞

日本大学 生産工学部建築工学科　早川 航平

「ケア」担う浮屋根 -既存団地改築による介護家族の新しい暮らし-

要介護高齢者の世帯構造の変化によって、介護家族のカタチが変化してきている。介護には様々な不安やストレスを抱えている介護者が多い。そこで、「介護者のケア」に焦点を置き、地域サービスが多く充実している松原団地の一角に浮屋根を挿入させ、既存団地低層部の改築とサービス介入によって、介護の負担や不安を軽減させる建築を提案する。

04 介護の負担・不安を軽減させる３つのキーワード

操作

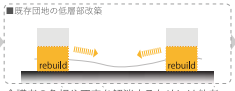
見守り合う環境

■建物で閉じられた領域空間

介護者にも生計を立てる為に仕事や、家族との時間も必要である。そこで家族不在の間は安全な環境であることが求められるため、浮屋根で閉じられた領域で過ごす。

他者の介入

■既存団地の低層部改築



介護者の負担や不安を解消するためには他者の介入が必要である。そこで既存団地の低層部を改築し、介護家族との接点となる場所をつくる。

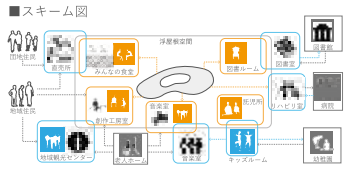
地域サービス

■介護・地域サービスの挿入

改築した低層部の内側には要介護者の居場所となるデイサービスを、外側には地域サービスをそれぞれ介入させることで介護家族を全面的にえる環境をつくる。

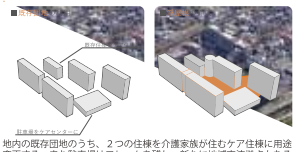
05 浮屋根を介して生まれる関係

■スキーム図



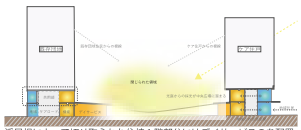
浮屋根の上 空間には、要介護者をえるデイサービスに加え、要介護者が地域との交流を行える地域サービスも充実させる。また、浮屋根空間にあるサービスと関連がある地域サービスをその近くに配置することで移動動線を短くした。

06 全体構成



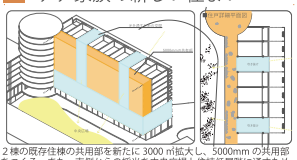
地内の既存団地のうち、２つの住棟を介護家族が住むケア住棟に用途変更する。また駐車場はフレームを残し、新たに地域交流拠点となる「ケアセンター」へと変える。そして、住棟低層階に浮屋根を挿入させ、各住棟をひとつなぎにする。

■低層部へのサービス介入

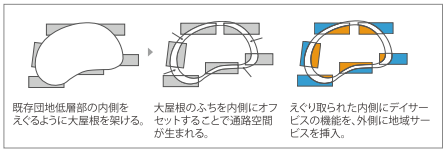


浮屋根によって切り取られた住棟１階部分にはデイサービスのを配置し、さらに内側にデイサービスのリビングを設けた。また、共用部を挟んだ外側には地域サービスを配置し、デイサービスの地域交流の接点となる空間とした。

07 ケア家族の新しい住まい



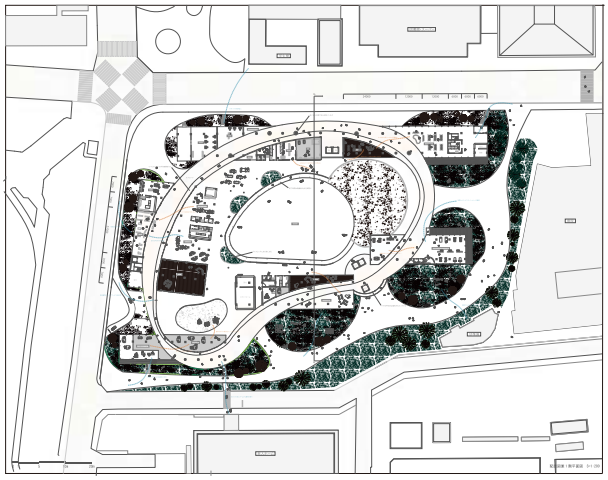
２棟の既存住棟の共用部を新たに 3000 ㎡拡大し、5000mm の共用部をつくる。また、南側からの採光を中央広場と住棟低層階に通すために、既存住戸の一部を光庭となるように吹き抜けにすることで、光が中央広場に溜まるよう計した。



既存団地低層部の内側をえぐるように大屋根を架ける。

大屋根のふちを内側にオフセットすることで通路空間が生まれる。

えぐり取られた内側にデイサービスの機能を、外側に地域サービスを挿入。



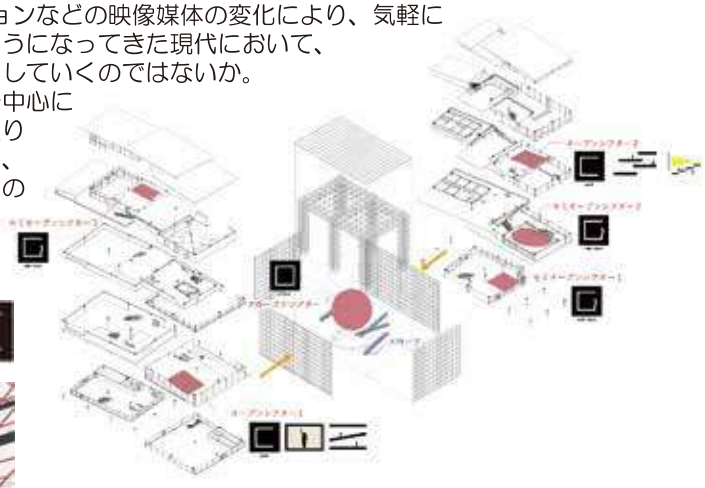
さいたま住宅検査センター賞

芝浦工業大学システム理工学部環境システム学科　吉里 聡真

シネマアップデート計画 -変化する映像媒体と映画館の在り方-

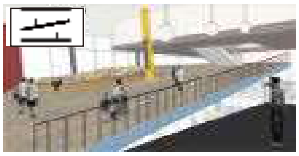
ミニシアターをはじめ、かつての映画館は街の人々にとって交流の場所となっていた。しかし、DVDやサブスクリプションなどの映像媒体の変化により、気軽に映像を手に入れることが出来るようになってきた現代において、映画館という建物のあり方も変化していくのではないか。「SAITAMAなんとか映画祭」を中心に映画で街を盛り上げようとする取り組みが行われている大宮を舞台に、地域の賑わい拠点となるこれからの映画館の在り方を提案する。

【シアタールームの開き方】



【人々の活動を窓で切り取る】

【レベル差をつけて視線が交錯する】



【スラブを傾け異なる活動が同時に視認できる空間】

【シアターを下から覗く】

さいたま住宅検査センター賞

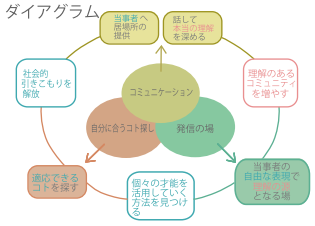
東洋大学ライフデザイン学部人間環境デザイン学科　石橋 怜奈

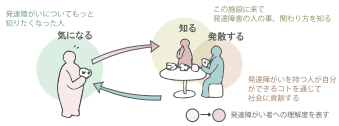
出合い、深める　才能を発散できる場所

成長に凹凸のある発達障害をもつ人を中心に、彼らが自分に合うコトと出会える場所、それを通じて人との関係を深める場所を設計した。刺激の多い大きな道路沿いから街との接点を中心の小さな道路に引き込み、ふらっと立ち寄れる展示やカフェ、ランドリーを配置した。就労支援の場の中心となるアトリエは大空間の中に、個人・集団それぞれのボックスで配置される。そうすることで、「人と人・モノ・コトとの出会い」と「作業に集中できる空間」を両立させた。発達障害の特性である「気の散りやすさ」から、窓は目線の高さには設けず、人の気配を感じられる作業空間を生み出した。

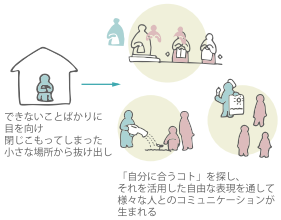
発達障害をもつ人々が個性（＝才能）を発散させる場所を生み出す。
そのようなコミュニティを増やす源となる。

ダイアグラム

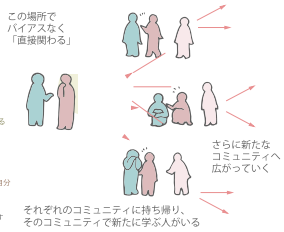


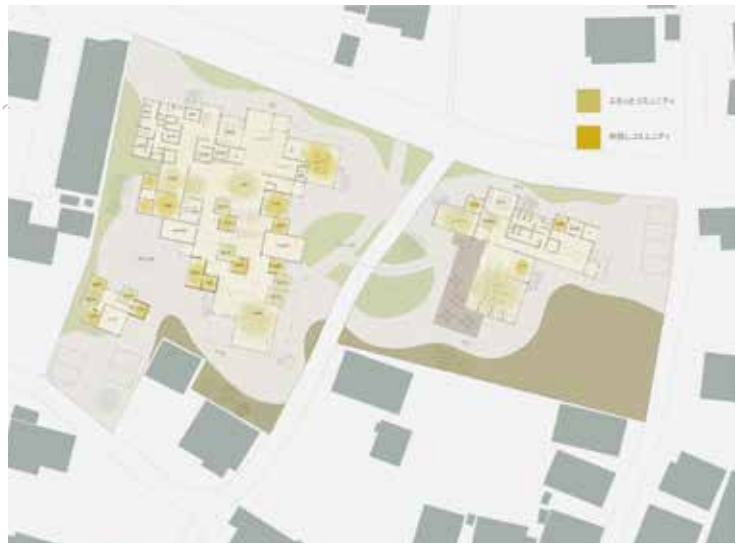


当事者にとって生まれる価値

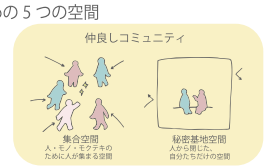


社会にとって生まれる価値





自分に合うコミュニティに出会う・深めるための５つの空間

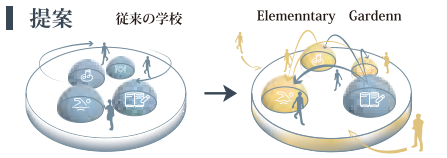


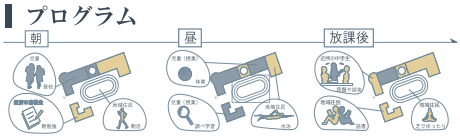
総合資格学院賞

芝浦工業大学 システム理工学部環境システム学科　樅山 大耀

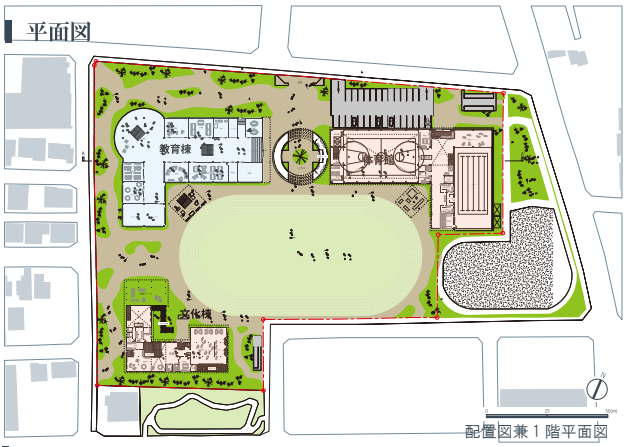
Elementary Garden -学習指導要領の変遷における小学校の再考-

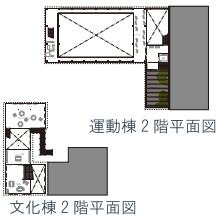
従来の学校教育を再考した小学校が「Elementary Garden」である。小学校の諸機能を地域に譲渡し、敷地内に「学校の場」と「地域の場」をつくる。
学校教育に「地域の場」が入ることで、小学生は地域との接点を感じながら、未来に向かい学校生活を送る。地域の人々 は、小学校を「地域の庭」のように気軽に訪れるようになり、学校教育に対し当事者意識が芽生える。地域と場を共有することで、新たな「学び」の実現と学校と地域のつながりを築く。





「Elementary Garden」では、常に児童の居場所、地域住民の居場所が共生朝、昼、放課後、長期休暇期間　各ユーザーの活動が流動的になるプログラムする



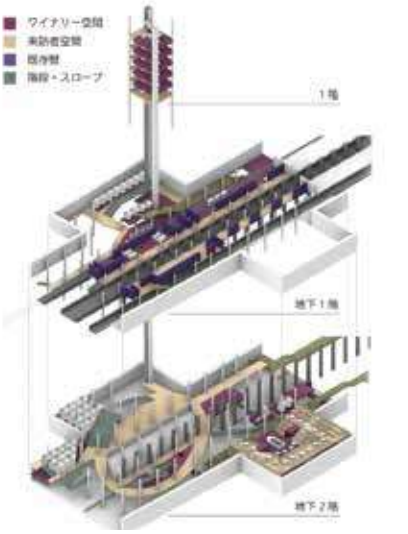


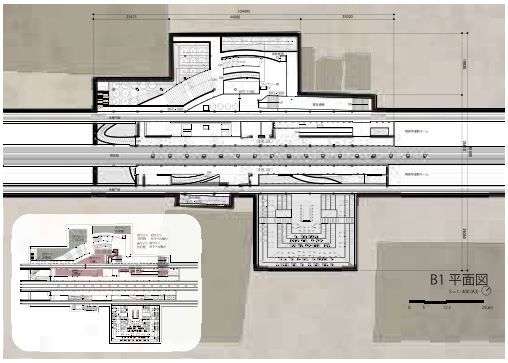
総合資格学院賞

芝浦工業大学 システム理工学部環境システム学科　久保田 知里

感性的美しさを魅せる -旧表参道駅における地下ワイナリーの提案-

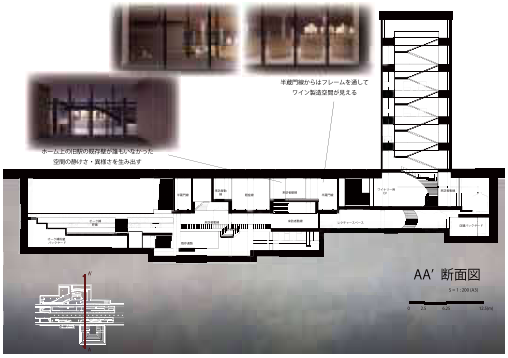
近代建築には、合理性や効率性を追求したことによる機能美や洗練された形状など感性的な美しさを放つものがある。しかしそのなかには埋もれてしまった感性的な美しさがあり、それらを魅せていく手法を探る。旧表参道駅を対象とし地下ワイナリーを提案する。感性的美しさを醸し出す空間的魅力である薄暗い動線や静けさを保持し既存の建築意匠を活かす。通過廃駅であることから電車の車窓がスクリーンをつくり、劇場性のある見学空間を生み出す。





旧表参道駅における感性的魅力
劇場性を活かす機能選定
ワイナリーにおける３つのストーリー

車窓からの景色　製造動線　来訪者の動線



日建学院賞

実践女子大学生活科学部 生活環境学科　松岡 実優

真仮想空間　-さいたま市庁舎跡地活用計画-

近年、インターネットの普及に伴って、オンライン上でのコミュニケーションや、仮想空間に入り込んだような没入感を味わえる体験が可能になった。その結果、オンラインゲームなどで、世界中の人との偶発的な出会いやコミュニケーション、デジタルアート等の非現実的な世界でアクティビティを楽しむ人々が多く存在している。益々普及すると考えられている仮想空間であるが、実際のところ、コロナ禍で多くの方が行っていたオンライン飲み会は、この数年で行われなくなった。これらから、仮想空間は、視覚と聴覚に偏っており、現実の行動が伴わないため、人々は大きな魅力を感じなくなり、今後発展されないと考える。そこで、新たに定義する仮想空間を現実世界の生活に還元するため、仮想と現実の境界を曖昧にしながら、今までにない体験ができる空間をつくり、真の仮想空間の可能性を提案する。現在のインターネット上では、私達消費者が見ているコンテンツから興味、関心、意図といった文脈を導き出し、検索画面やSNS等ではそれぞれに合った広告が表示されるといったマッチングの仕組みが普及している。つまり、インターネット上は、サイト訪問歴、購入履歴、検索履歴等からビックデータとして蓄えられた多くの情報によって、日々各々の興味関心に沿った世界に変化している。そんなインターネット上で行われているマッチング機能を空間化し、私達の生活に取り入れることで、現実世界でインターネット上の世界に入り込んだような体験ができる空間を生み出せると考えた。さいたま市役所の移転後、新たな活用が検討されている跡地を敷地対象とすることで、我々の生活に影響を及ぼすような本当の仮想空間を、さいたま市の新たな拠点として提案する。

親和性が高い：大きなキーワードに囲われたような空間へ変化する

親和性が低い：人の動きに伴って壁一面にいくつものキーワードが浮かび上がるような空間へ変化する

現実圏外空間
：現実世界との接点となる現実圏外空間

マッチングしていない：小さなキーワードが点在している空間へ変化する

Leading pillar

埼玉県住宅供給公社賞の作品を展示

卒業設計コンクールのご協力をいただいている埼玉県住宅供給公社で、同社から賞をいただいた日本大学 生産工学部建築工学科の早川 航平さんの作品が、同社のロビーに展示されました。
社員の皆さんに見ていただくのはもちろん、同社を訪れる方たちの目にも留まります。
既存建築をリノベーションし、福祉を充実させる提案が、同社の今後の事業展開の中に少しでも生かされることがあれば、卒業設計コンクールを主催した者として、大きな喜びです。

日本大学 生産工学部建築工学科　早川 航平

「ケア」担う浮屋根 -既存団地改築による介護家族の新しい暮らし-

第24回卒業設計コンクール展 参加者(受賞者)一覧

審査結果	地名	氏　名	学　校　名	作 品 名
埼玉県知事賞	埼　桶川市	菅野 大輝	工学院大学建築学部 建築デザイン学科	額縁から見る ―建築の作品化による街道沿いの分散型展示廊―
準埼玉賞	埼　小川町	池見 紀乃	筑波大学芸術専門学群 環境デザイン領域	水文化ユニットのリデザインによる槻川の流域治水
埼玉建築設計監理協会賞		久保 桜子	工学院大学建築学部 建築デザイン学科	流動的図書空間 ―個性の片影が集う本棚の世界―
準埼玉建築設計監理協会賞 JIA埼玉最優秀賞 日建学院賞	埼　入間市	岸 ちひろ 柳澤 貴太 〔協働〕	東京電機大学理工学部 理工学科建築都市環境学系	キノループ ～林業の郷、７０年構想～
特別審査員賞	埼　さいたま市 見沼区	行川　慧	東洋大学理工学部建築学科	コモンインフィル興
特別審査員賞	埼　熊谷市	山崎翔大朗	工学院大学建築学部 建築デザイン学科	「振る舞いを貯める」 ―物流現場に築く「ひとの為の倉庫」―
特別審査員賞	埼　さいたま市 大宮区	竹島 綾里	実践女子大学生活科学部 生活環境学科	都市型高層建築構成法
埼玉県住宅供給公社賞	埼　草加	早川 航平	日本大学 生産工学部建築工学科	「ケア」担う浮屋根 -既存団地改築による介護家族の新しい暮らし-
さいたま住宅検査センター賞	埼　大宮	吉里 聡真	芝浦工業大学システム理工学部 環境システム学科	シネマアップデート計画 -変化する映像媒体と映画館の在り方-
さいたま住宅検査センター賞		石橋 怜奈	東洋大学ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科	出合い、深める 才能を発散できる場所
JIA埼玉優秀賞	埼　行田	藤村圭央莉	ものつくり大学技能工芸学部 建設学科	算数でつなぐまち
JIA埼玉優秀賞	埼　幸手市	高橋　陸	日本工業大学建築学部 建築学科建築コース	トロッコが走る幸手の横丁鉄道
総合資格学院賞	埼　ふじみ野市	樅山 大耀	芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科	Elementary Garden ―学習指導要領の変遷における小学校の再考―
総合資格学院賞		久保田 知里	芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科	感性的美しさを魅せる
日建学院賞	埼　さいたま市 浦和区	松岡 実優	実践女子大学生活科学部 生活環境学科	真仮想空間 ～さいたま市庁舎跡地活用計画～
奨　励　賞	埼　熊谷市	栗田 将吾	日本工業大学建築学部 建築学科建築コース	人と空気の流れを生む建築 熊谷スポーツ文化公園における地域交流施設
奨　励　賞	埼　川口市	渡邉 康太	芝浦工業大学 システム理工学部 環境システム学科	束ね、発つ ―日本人と外国人の共通項の創出―
奨　励　賞	埼　さいたま市 浦和区	横尾 真世	東洋大学ライフデザイン学部 人間環境デザイン学科	Share-courT
奨　励　賞	埼　さいたま市	武井 彩菜	東京理科大学創域理工学部 建築学科	ゆらぎ、自然と人とともに
奨　励　賞	埼　熊谷市	井藤 飛鳥	ものつくり大学技能工芸学部 建設学科	無意識内在生からの脱却
奨　励　賞	埼　越谷市 川柳町	深井 瑞紀	東洋大学理工学部 建築学科	人間の主体性と住まいの関係の再構築 ―自宅・祖父母宅の観察から考える庭・住まいのあり方―
奨　励　賞	埼　草加市	中山　優	東京電機大学未来科学部 建築学科	大きな屋根の下
奨　励　賞	埼　さいたま市 緑区美園	綱島 雄真	広島大学工学部第四類 建築プログラム	まちに出る―地域住民の交流拠点―
奨　励　賞	埼　所沢市	澤口 亮太	筑波大学芸術専門学群 建築デザイン領域	建築の変生と記憶の墓
奨　励　賞	埼　西部地域	保坂 勇飛	東洋大学理工学部 建築学科	公共施設の更新から考える学校の統廃合・複合化
奨　励　賞	埼　東松山市	前田 飛翔	ものつくり大学技能工芸学部 建設学科	木立に解け込む軸組み 埼玉県東松山市農場の農機具小屋をひもとく
奨　励　賞	埼　杉戸町	齋藤 実希	日本工業大学建築学部 建築学科生活環境デザインコース	移ろい継ぐ杉戸宿
奨　励　賞	埼　さいたま 新都心	田中 葵生	実践女子大学生活科学部 生活環境学科	嫌われメカニカル ～戒めの資源化～
奨　励　賞	埼　さいたま市 浦和区	亀谷 理久	武蔵野大学工学部 建築デザイン学科	淀みと流れ -新さいたま地域拠点―
奨　励　賞		八代　翔 安西 達哉 〔協働〕	東京電機大学理工学部 理工学科建築都市環境学系	高楼都市 -月島地区における新しい超高層住居の在り方-
奨　励　賞		Hnin Shwe Yee	ものつくり大学技術工芸学部 建設学科	街の中に残る暮らし -ミャンマー。ヤンゴン郊外における子育てしやすい環境で長く住み続けられる集合住宅-
奨　励　賞		篠木 大樹	日本工業大学建築学部 建築学科建築コース	detohama ambient 人と自然の相利共生関係を促すオフグリッド建築群
奨　励　賞		佃　彩名	東京電機大学未来科学部 建築学科	大切な小さなことを
奨　励　賞		濱 ゆとり	日本大学 生産工学部 建築工学科	残り香に宿る -北品川宿、じわり再編-
奨　励　賞		國峯 朝紀	芝浦工業大学 システム理工学部環境システム学科	モード再構築拠点 ～東急百貨本店アップサイクル計画～
奨　励　賞		渡部 真優	東京理科大学創域理工学部 建築学科	Wat Rang Bua Thong 橋 ～歩み寄る橋、滲み出す生活～
奨　励　賞		佐藤　慧	工学院大学建築学部 建築デザイン学科	御笑い劇場 -笑いの連鎖を生み出す大衆芸能劇場-
奨　励　賞		岡村 知輝	東京電機大学未来科学部 建築学科	創作の境界前線 -都市のギャップに現れる断片的風景の展示-
奨　励　賞		鈴木 晴香	日本工業大学建築学部 建築学科生活環境デザインコース	抜けて、ひろがる、まちの入り口 -宇都宮駅西側に奥行きを-
奨　励　賞		志風 智香	ものつくり大学技能工芸学部 建設学科	居てもいい場所 -リチャード・ロジャース「歌舞伎町プロジェクト」との共生-

「埼」は埼玉県知事賞対象作品

第24回卒業設計コンクール展について　総評

審査委員長　岩城 和哉（東京電機大学 教授）

審査委員を代表して埼玉建築設計監理協会主催「第24回卒業設計コンクール展」公開審査の総評を述べさせていただきます。今年は応募41作品のうち、埼玉県知事賞の対象作品（埼玉県を敷地とした提案）が27作品と2/3を占め、本コンクールの特徴である「埼玉という地域に根ざした提案の豊富化」が着実に定着しつつあることを感じました。もちろん、埼玉以外を敷地とした作品も受け入れるという従来の方針は変わらず維持されており、14作品の応募がありました。

今年は審査方法に関して、２つの変更点があります。１つは、従来の匿名審査ではなく、実名審査としたことです。具体的には、作品に大学名と氏名を明記し、さらに審査中に応募者による口頭説明（任意）を可能としました。特に後者に関して、短時間での適切な説明能力が審査結果に影響した可能性もあります。他の１つは、特別審査委員賞の公開選考です。従来は別室で行われていた選考を展示会場で行いました。どの作品が選考の俎上に上がり、どのような議論がなされ、各審査員がどの作品を評価したか、といった内容が応募者や来場者に公開されました。次回に向けてその妥当性の検証が必要ですが、この２つの変更に対する当日の会場の声は概ね好評でした。

本コンクールは、建築と場所の関わりを重要な主題としています。今回の応募案では、敷地選定の根拠や意義、場所特性の分析に関する考察がプレゼンテーションの一部としてわかりやすく記載され、建築と場所の関わりを丁寧に読み解いた提案が例年以上に充実している印象を受けました。さらに、審査において高く評価された応募案は、歴史、文化、地勢といった敷地特性を単なる情報として抽出するのではなく、記憶や体験を想起させるような空間性や雰囲気を伴うものとして捉え、それを建築へと昇華し、適切に表現している点が秀逸でした。

敷地特性を建築のかたちへと翻訳してゆく能力（技術）はもちろん重要ですが、その前段階において、敷地から何を読み取り、それをどのように掬い取るかという能力（感性）の重要性をこれらの応募案は示しています。次回以降も、場所に対する豊かな感性と、それを建築化する技量を兼ね備えた多様な応募案が集まることを期待します。

最後になりましたが、「第24回卒業設計コンクール展」公開審査を滞りなく実行できたことに対して、本コンクールに応募していただいた学生のみなさん、審査をご担当いただいた皆様、そして、審査会開催と運営にご尽力いただいた埼玉建築設計監理協会をはじめとする関係者の皆様に、この場を借りて感謝申し上げます。